

名古屋大学ぬいぐるみ病院活動報告書

文責 名古屋大学医学部医学科 1年 竹村直晃

概要

実施日時：平成22年3月9日 10:15~11:00

実施場所：こすもす保育園 愛知県名古屋市

対象：0~5歳児（3歳…5名 4歳…8名 5歳…2名 他1歳児、2歳児も若干名）

学生参加者：9名（2年…2名 1年…7名）

当日の流れ

時間	内容
10:00	こすもす保育園到着、準備など
10:15	保健教育
10:35	保健教育終了、片づけ、あいさつ
11:00	解散

保健教育の内容

今回、以下2つのテーマについて保健教育を実施した。

1. 「お医者さんって、どんな仕事？」

<テーマを選んだ背景>

今回は我々にとって初めての実施なので、まず園児たちに我々は何者なのか（何をやっているのか）を知ってもらおうと思った。また、今後保健教育を行っていくためにも園児たちに我々のことを覚えてもらう狙いもあった。

<この教育を通してどのようになってほしいか>

お医者さん、看護師さんとはどのような仕事をする人か、また我々が何をやるものか知ってもらおう。

<方法>

まず我々は医師や看護師になる勉強をしていると紹介した。次に注射の内容を書いた絵本の読み聞かせを行った。そして、聴診器や体温計を用いて実際の診察の様子を園児たちに見せた。

<この方法を選んだ理由>

我々がやっていること（将来やること）を具体的な行動で示すことで、園児が我々のやっていることを理解してくれると考えたから。

2. 「手洗い」

<テーマを選んだ背景>

ミーティングの時に保健教育でおこなう内容がいくつか挙がったが、手洗いは割と準備、作成のやりやすいものと考えた。また、園児たちは歌に合わせて手洗いをしていると保育園の先生から聞いていたので、園児もこの教育に参加しやすいと思った。

<この教育を通してどのようになってほしいか>

手洗いの仕方や重要性を子どもたちに理解してもらおう。

<方法>

劇による。

～あらすじ～

ゆーくんは外で遊んでいた。しかし、家に帰った後手洗いをせずそのままおやつを食べた。ゆーくんは夜お腹が痛くなって目が覚める。すると汚いものが大好きなバイキン王が現れ、ゆーくんを連れていこうとする。そこへ清潔大好きなセッケンマンが登場し、バイキン王を追い払う。そしてセッケンマンは友達の手洗いお姉さんと呼び、ゆーくんの手洗い指導をする（このとき、次は何をするのか、どこを洗うのかなど、園児たちに問いかけながら行った）。手洗い指導が終わるとセッケンマンと手洗いお姉さんは立ち去る。ゆーくんは腹痛が治り、再び寝る。

<その方法を選んだ理由>

劇の形にすることで、園児たちに興味を持ってもらえるし、印象に残りやすいと考えたから。



総括

<工夫した点>

言葉について考えた。例えばセッケンマンのセリフに「清潔」という言葉が出てくる。ミーティングではこれを「きれい」など分かりやすい言葉に帰るかどうか話し合いを行ったが、結局そのまま使うことにした。しかし、その直後に「汚いものは許さない」というセリフを加えることで「清潔」が意味するものを漠然と伝えることができるようにした。

また、衣装について、バイキン王は黒と金、セッケンマンは白とすることで敵・味方の印象を視覚的に伝えられるようにした。

<参加学生の反応>

初めての実施で、準備段階から皆はりきっていた。しかし、実際に保健教育を行ってみると課題が多く見付き、これから一層努力しようという気持ちになった。」

<園児の反応>

良い反応が得られた点

問いかけに手を挙げてくれたり、手洗い指導に積極的に参加してくれたり、保健教育の内容に興味を持ってくれたようであった。中にはある程度の知識を持っている子がいて、問いに対して的確な答えを示す子もいた。

また、バイキン王やセッケンマンといったキャラクターには特に興味を持ってくれたようである。

良い反応が得られなかった点

1歳児や2歳児といった小さい子には少しわかりにくく年長の子より反応が乏しかった。

<失敗した点>

1. 劇中、大声で泣き出す子がいた。先生の話によると、その子は以前入院しかけたことがあり、お医者さんにいろいろなことをされて怖い思いをしたらしいとのことだった。我々の中には演出の都合上白衣を着用した者がいたが、「白衣＝怖い人」という印象を与えたようだ。白衣を着用するかどうか、慎重に考える必要があると感じた。

2. 絵本の読み聞かせで「はしか」という言葉をそのまま読んだが、子どもたちには分かりにくかった様である。相手はあくまで子どもなので、専門的な言葉ではなく分かりやすい言葉に言い変えるなど工夫が必要である。

3. 前半は注射の話で後半は手洗いの話という、一貫した内容ではなかった。テーマを絞ったり、一貫した内容になるよううまくつなげる工夫が必要である。

4. 場所の都合上、劇に出ていない学生が子どもたちに混じることができなかった。この点は保育園の設備も考慮して、どうしていくか考えなくてはならない。

<改善点>

失敗した点を踏まえて

1. 本当に白衣を着る必要があるかどうか、保健教育を行う前にメンバーでよく考え話し合う。どうしても着る必要がある場合、子どもたちに来ている意味を説明する。
2. 分かりやすい言葉を使う。「はしか」を「バイキン」言い変えるぐらい大胆にした方が逆に子どもたちにとっては理解しやすいだろう。
3. 保健教育で取り上げるテーマを考える必要がある。1つで進めていくのか、または関連のある2つのことを取り上げるのか。今回注射の内容は若干急いで準備した感じがあるので余裕を持って内容を検討したい。
4. アンケート結果とも多少絡むので以下に記述する。

<アンケート結果を踏まえて>

人数がやや多いという答えが多くみられた。今回9人で保健教育を行ったが、5～6人が理想的ということだった。人数を減らせば劇に参加していないメンバーが子どもたちの間に混じることも可能だろう。しかしながら、こちら側としても多くのメンバーに保健教育を体験してもらいたいと考えているので、これからメンバー内で話し合いを進めていく。

以上